

## [成果情報名]カンキツ樹におけるシカによる樹皮食害防止と樹皮再生促進法

[要約]カンキツ樹の主幹や垂主枝に約 10 cm 間隔で、らせん状に針金または生分解性テープを巻きつけることで物理的に樹皮食害を 2 年半以上防止できる。また、シカによって樹皮の食害を受けた部分になるべく早く樹脂製塗布剤を塗り、その上からアルミ箔で被覆すると樹皮の再生程度が高まる。

[キーワード]カンキツ、獣害、剥皮

[担当]三重県農業研究所 紀南果樹研究室

[分類]普及

---

### [背景・ねらい]

近年、シカによるカンキツ樹の樹皮食害が深刻化している。県内のシカによるカンキツ樹皮食害は南伊勢町や尾鷲市で確認されていたが、近年南牟婁郡御浜町の国営開発農地でも確認され、カンキツ栽培地域全体に広がっている。カンキツ樹は永年生作物であるため樹皮の食害により樹勢が衰え、生産性が著しく阻害され経営上問題となっている。そこで、カンキツ樹のシカによる樹皮食害防止対策と食害後の樹皮再生促進法について検討する。

### [成果の内容・特徴]

1. カンキツ樹の主幹や垂主枝に針金もしくは生分解性テープを約 10 cm 間隔でらせん状に巻きつけることで、処理後 925 日（約 2.5 年）以上シカの樹皮食害を防止できる。針金と生分解性テープの使用量は成木 1 樹当たり 20m 程度で、設置時間は約 15～25 分/樹かかる。経費は生分解性テープでは約 100 円、針金では約 150 円/樹である（写真 1、写真 2、表 1）。
2. シカによる樹皮食害後に樹皮の再生を促進する方法として、被害部分に樹脂製塗布剤を被害後すぐに塗ってアルミ箔を被覆することにより約 3～6 カ月後には樹皮が再生する（表 2、写真 3）。
3. 樹脂製塗布剤処理は、被害発生後なるべく早い方が樹皮の再生が高まる（表 3、写真 4）。

### [成果の活用面・留意点]

1. カンキツのシカによる樹皮食害発生地域に導入できる。
2. 針金はコの字型や U の字型の留釘を用いて幹に固定する。
3. 樹の成長により針金が幹に食い込む恐れがあるので、巻き付けは余裕を持たせ、1～2 年に 1 回は針金が幹に食い込んでいないか点検する必要がある。
4. 生分解性テープと樹皮の間にカイガラムシ類の発生が見られたら防除を行う。
5. 生分解性テープが巻きにくい株元部分もシカが食害するため、ネット等で根元を覆うとよい。

[具体的データ]



写真1 針金を巻いた様子



写真2 生分解性テープを巻いた様子

表1 シカによるカンキツ樹皮の食害面積割合の推移

処理区	樹当たりの樹皮食害面積割合 (%)		
	370日後	686日後	925日後
針金	0.3	0.3	0.3
生分解性テープ	2.6	3.0	3.0
無処理	4.6	9.6	10.3

※早生ウンシュウ成木の主幹及び垂主枝における食害面積割合を達観

表2 樹脂製塗布剤処理105日後の樹皮の再生程度

処理区	樹皮再生面積割合 (%)
樹脂製塗布剤	76.8
樹脂製塗布剤+アルミ箔被覆	97.2
無処理	22.4

※カンキツ樹の主幹の樹皮部分を剥皮 (7.4cm<sup>2</sup>:1処理1カ所/樹) し、剥皮部分に上記に処理を行い、処理105日後に調査を行った。

2008年7月25日処理



写真3 処理105日後の樹皮再生

表3 樹脂製塗布剤の処理時期別樹皮再生程度

処理時期	再生面積割合 (%)
当日	49.6 a
2日目	21.5 a
10日目	15.3 ab
20日目	15.6 ab
無処理	8.1 b
有意性	**

2009年8月11日処理

当日 2日目 10日目 20日目 無処理



写真4 処理6か月後の樹皮再生

[その他]

(市ノ木山 浩道)

研究課題名：予防型獣害対策構築のための調査研究事業

予算区分：県単

研究期間：2012年度

研究担当者：市ノ木山 浩道、中嶋 香織

発表論文等：なし